

実践ノート

看護学と保育学の多職種連携教育プログラム 開発に向けてのプレ実践

—「ビジュアルテキスト持ち寄り型看図アプローチ語りカフェ」—

山下雅佳実¹⁾

YAMASHITA Akemi

キーワード：看図アプローチ語りカフェ・多職種連携教育・保育士養成課程・教育プログラム開発

1. 問題と目的

わが国は新生児医療の進歩などを背景に、人工呼吸器や経管栄養、たんの吸引などの医療的ケアが日常的に必要な子ども（以下、医療的ケア児）が増加しており、推計で2万人以上とされている。医療的ケア児は、学校に登校する際に保護者の付き添いを求められたり、医療的ケアが実施できないなどを理由に保育所等に入所できないこともあり、学びの保障が十分に図れていないという現状がある。しかし、2021年6月11日「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）」が参議院本会議で可決、今秋にも施行予定であり、これまで努力義務にとどまっていた医療的ケア児とその保護者への支援策が「責務」となる。学校や保育所等の設置者に対しては、医療的ケアを行う看護師等を配置するなど、保育・教育現場でも医療的ケア児が安心・安全に過ごすことができるよう必要な措置を講じなければならない。

現在、認定こども園や保育所等における看護師等配置における法的根拠はなく各保育所等の裁量に任されている。令和元年社会福祉施設等調査の概要（厚生労働省2019）によると、全国に「保育所等」は28,737施設あるにも関わらず、看護師等資格を有する常勤換算従事者数は約12,000

人である。つまり、約半数の保育所等には医療的ケアを実施できる看護師等が配置されていないということになる。医療的ケア児支援法が今秋にも施行となることを踏まえると、保育所等における看護師等配置は急務であるが、単に看護師等を配置すれば問題が解決するということではない。医療的ケア児が安心・安全な園生活を送るためには医療・福祉・教育というすべての側面から総合的に育ちを支援することが重要であり、そのためには保育士等と看護師等の協働・連携が必要不可欠である。しかし、保育と看護の連携・協働における先行研究を概観すると、職種間の専門性に対する理解や認識不足、コミュニケーション不足からの情報共有の不十分さ、関係性の構築不足等が明らかになっている（金城・松平2004、高橋・土路生・鴨下2017、上出・林2019）。さらに保育士は看護師等に対し、ともに子どもと保護者を支援しているとの意識を持ちづらく、看護師等との情報交換に意義を見出しにくい状況であることが明らかになっている（大塚・巽2018）。医療現場では「チーム医療」が基盤にあるため、看護師等については多職種との協働・連携に抵抗感はないと思われるが、保育士等に関しては約半数以上の保育所等に看護師等が配置されていないことを踏まえると、先行研究にあるように情報交換や対等

1) 中村学園大学短期大学部

の立場での意見交換がスムーズにできないことが予測される。さらに、医療系大学においては多職種連携教育（以下、IPE）が推進されるなか、保育・教育系の大学では遅々として進んでいない現状がある。

山下・萩尾 (2020) は、保育士養成課程に在籍する学生（以下、保育学生）と看護師養成課程に在籍する学生（以下、看護学生）を対象に ICT を活用した IPE を実践し、その効果を報告している。合同授業は紙面事例を用いて 4 回開催されており、その結果、保育学生は【相互の専門性への理解の深化】【協働の価値と方法を理解】【内省による成長】という学びがあったことを明らかにしている。課題としては、学部や大学を超えたカリキュラム調整の難しさを述べていた。山下・萩尾 (2020) に限らず、学部や大学を超えたカリキュラム調整は IPE の課題である。加えて、効果的な IPE の展開には、合同授業を複数回設定することが必要であり、準備段階として学生同士の「顔の見える関係性」を構築しておくことが望ましい（今福 2020）。山下・萩尾 (2020) の実践報告では、4 回すべての合同授業で紙面事例を活用しており、「顔の見える関係性」の構築が不十分であったと思われる。しかし、保育学生が学びを得ることができているのは、回を重ねるごとに「看護」という専門性を徐々に理解していった結果ではないかと思われる。つまり、「4 回」という授業回数が学びに貢献している可能性がある。

保育・教育系大学へ IPE を効果的に導入するためには、カリキュラム調整を容易にするために合同授業の回数を減らし、かつ、複数回の合同授業と同等の学びを学生が得られるような授業プログラムを開発する必要がある。そこで本研究では、「みる」ことから始まる教育方法である「看図アプローチ」に着目し、保育と看護の IPE プログラムの開発を目指す。看図アプローチは協同学習のツールであり、他者理解や自己理解を促進し（茅野 2020）、職業観を語ることを容易にする（山下・萩尾 2020）。看図アプローチを活用することで、合同授業の回数が少なくとも山下・萩尾

(2020) と同等の学びを得られるのではないかと考える。

本稿では、開発した 2 つの授業指導案のうち、各職種の専門性理解のための授業指導案である「ビジュアルテキスト持ち寄り型看図アプローチ語りカフェ」の発表準備として保育学生を対象にした実践結果を報告する。なお、「専門性」について米岡 (2019, p.6) は、以下のように説明している。

専門性とは、法律に決められた責務や役割だけでなく、専門職の持つ知識や技術、思考などを含む特性を指すと考えています。専門職によって、持っている知識や技術が異なるだけではなく、その土台となる価値観、大切にしている事柄や注目する点なども異なっていることが多く、当人が意識しなくとも考えや行動に影響を与えているものを含めて専門性と捉えているのです。

本稿では、米岡 (2019) の専門性の定義を採用し、授業指導案を開発している。そのため、単なる職業紹介ではなく、普段意識することのない自身の保育に対する価値観や大切にしていること等も含めて専門性としている。

II. 授業の目標等

以上の内容を満たすため、次のような授業目標を設定した。

- 1) 自己の職業観を写真で表すことができる。
- 2) 自己の職業観を他職種が理解できるように説明することができる。
- 3) 写真を通して自職についての理解を深めることができる。

授業者・学習者等

授業者は本稿著者である山下雅佳実、授業科目名は「子どもの保健Ⅲ」である。「子どもの保健Ⅲ」は A 大学教育学部の 4 年生を対象に開講された選択科目であり、保育学生 21 名が受講している。授業実施日は、新型コロナウイルス感染症の感染

拡大により緊急事態宣言発出中であったため、オンライン形式を採用した。

倫理的配慮

保育学生には研究目的・内容・方法及び参加は自由であること、参加しない場合でも一切不利益はないこと等、アンケート機能を有する大学向けプラットフォームシステム (UNIVERSAL PASSPORT RX, 日本システム技術株式会社, 東京) を用いて説明した。保育学生の参加の意思は、このプラットフォームシステムを用いて確認をしている。

Ⅲ. 授業の実際

Ⅲ-1 ステップ1

事前課題

保育学生は、ほかの専門職との合同授業の経験がない。そこで、緊張や不安を軽減することを目的に、合同授業に向けたプレ発表会 (6 月 8 日) を設定し、「第 7 回子どもの保健Ⅲ」(6 月 1 日) の授業時に、次のように事前課題についてスライドで教示した。

「あなたは『保育』とは、なんだと思いますか？あなたが考える『保育』に近いと思う写真を 1 枚撮影してきてください。そして、その写真に 10 文字でタイトルをつけてください。さらに、その写真とタイトルから、看護学生さんが『保育とは何か』理解できるような説明文を「話し言葉」で考えてワークシート (ワークシート 1) に記述してください。」

写真に関しては、人物・文字が入っていないもの・自分で撮影したオリジナルのもの・肖像権にかからないもの (人物は顔や対象が特定できるような写真以外は OK。例えば人の手や背中では OK。) を撮影するように説明する。加えて、撮影技術を問うものではないので、あえてブレた写真や映りが悪いものでも、自分の考える「保育」に合うと思う写真であれば大丈夫であることを伝える。

説明文に関しては、①映っているものは何か②なぜその写真を選び、そのタイトルをつけたのか③「保育」として写真を選んだ理由④自分が考える「保育」を今後実践していくために取り組んでいきたいことの 4 点を記述するように説明した。また、説明文は看護学生にも理解できるように「話し言葉」で記述すること、加えて、そのまま読み上げれば口頭発表 (プレゼン) が成立するレベルの文章にすることを伝えた。事前課題については、保育学生と看護学生が同じ課題となるように、合同授業を実施する長崎県央看護学校の教員と協議し、設定している。

看護学との合同授業

自分が考える「保育」とは

学籍番号: _____ 氏名: _____

独自に撮影した写真をここに貼り付けてください。

タイトル: ○○○○○○○○○○ (10 文字)

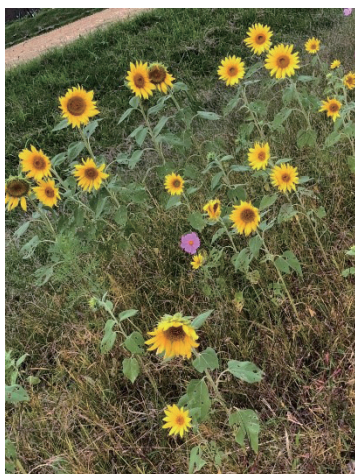
＜説明文 (実際に発表できるように話し言葉口調で)＞

説明文には、①映っているものは何か②なぜその写真を選び、そのタイトルをつけたのか③「保育」として写真を選んだ理由④自分が考える「保育」を今後実践していくために取り組んでいきたいこと、を看護学生さんにも理解できるように「話し言葉」で書いてください。

ワークシート 1 (A4 版)

この課題に取り組んでもらうにあたって、次のような例を示した。なお、写真は山下によるものである。

説明の具体例



【タイトル】

「それぞれの花を綺麗に」

【説明文】

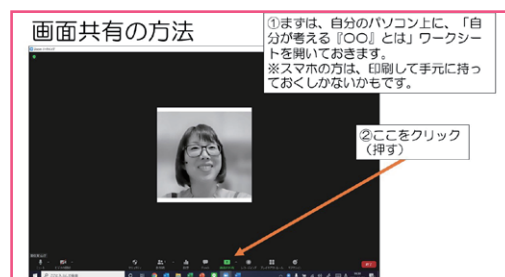
私の写真はこれです。タイトルは「それぞれの花を綺麗に」です。この写真を選んだ理由は、どんな子どもも平等に保育を受ける権利があって、この写真はひまわりの中にぽつんとコスモスが咲いてるけど、なんかきつと、ひまわりばかり咲いてたら、それはそれで揃って綺麗だと思うんですけど、でも、ひっそりと咲いてるコスモスもすごく綺麗で、別にみんな一緒だからいいというわけじゃなくて、違ってても、ちゃんと花として生きているっていう感じ…しかも、ひまわりもいろんな方向を向いてて、高さも違ってて、個性があるなって思ったんです。それが、保育が大切にしている「ひとり一人の子どもの個性を大切にする」ということと同じだと思ってこの写真を選びました。保育って、たぶん、集団で遊ばせるとか、お世話するっていうイメージがあると思うんですけど、そうじゃないんですよ。集団での活動もあるんですが、やっぱりひとり一人が大事っていうか、そういうのを大事にして、集団での活動も考えてるんです。あと、ひまわりとコスモス以外にも、生えている雑草だって、一生懸命生きてる。花じゃなくっても、一生懸命生きてる。私はそんな雑草でさえ、綺麗だなんて思いまし

た。私は保育って、障害があってもなくても、家庭が円満でも複雑でも、すべての子どもたちの、すべてをありのまま受け止めて、受け入れて、同じように接して、子どもの幸せを心から願い、少しでも幸せを増やしていくための職業だと思っています。すべての子どもたちの幸せを増やすためには、まだまだ知識と技術が足りていません。特に、医療的ケアを必要とする子どもとか、きっと知識と技術がないから、苦しい時にすぐに対応できないし、何かあってもすぐに対応できないと思うんです。そなんじゃ、子どもたちの幸せを増やしていけないと思うんです。だから、これから医療のことも勉強して、具体的な医療ケアとかできるようになりたいと思っています。

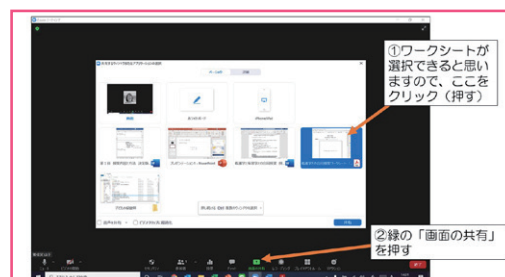
III-2 ステップ2

保育学生同士によるプレ発表会

実施日時は 2021 年 6 月 8 日 15:00 ~ 16:30 である。発表は Web 会議システム Zoom ミーティングを活用した。発表に際しては、自身のワークシートを Zoom の「画面共有」機能を活用し発表できるように、「画面共有」の方法を簡単に説明した(スライド 1・2)。



スライド 1



スライド 2

スマートフォン等で参加している学生には、前もって提出されているワークシートを授業者である山下が画面共有することを説明した。また、普段は通信環境等の問題からカメラをオフにして授業に参加するように伝えているが、発表時はカメラをできるだけオンにするように説明した。

授業に参加した保育学生 21 名すべてが写真を独自に撮影し、ワークシートをもとに発表することができていた。以下に、学習者 3 名の発表内容を掲載する。

学習者 1 の発表



【タイトル】

「小さなことに気づく力」

【説明文】

この写真は、広場に咲いていた花の写真です。この花は、広場の雑草の中から私の友達の現役の保育士がを見つけました。私は、上の紅葉ばかり見ていて、下に咲いている小さな花の存在に気づくことが出来ませんでした。それでタイトルを小さなことに気づく力にしました。

保育は、子どもの行動や言葉などから日々の成長に気づき認めること、それを保護者と共有して一緒に育てていくことだと思います。保育士は、1人で複数の子どもの保育をするので、広い視野を持っていないといけません。また子どもたちは日々成長していくので、小さな変化にも気づかないといけません。私は、この花の存在に気づけなかったので、今私に

足りない力は広い視野を持ち周りを見ることだと考えてこの写真を選びました。

小さなことに気づくには、広い視野を持たなければいけません。広い視野を持つためにこれからは、何事にも興味関心を持つよう心がけようと思います。

学習者 2 の発表



【タイトル】

「子どもと同じ目線から」

【説明文】

写真に撮ったのは家の近くの公園の木です。なぜこれを撮ったのかというと、日本の木というのは季節を感じられる身近な植物の一つだと思い、子どもは自然と触れ合い、季節を感じながら成長すると考えるからです。

自分も子どものころ、木や山があればそこで遊んでいました。また、この写真のポイントとして、地面からとても近いところで写真を撮っています。これは、子どもの目線の高さを意識しました。ちょっと低すぎるとは思いますが、わかりやすいようにそういう撮り方をしました。何が言いたいかというと、保育は子どもの目線から考えることがとても重要で、子どもの目線から保育を行うことがほとんどだと思います。子どもが何をみて何を感じているかを、まずは視点を同じにして、一緒に見る。これが保育の第一歩だと私は考えています。

また、子どもがどう感じ、どう考えるかも、

保育士として常に意識していく必要があります。保育する環境、保育で行う遊び、子どもとの関わり方すべてにおいて、子どものためになるかを考えるのがより良い保育につながると私は考えます。これからも、子どものための保育を忘れないように、子どもの目をもって、保育を学んでいきたいと思っています。

学習者3の発表



【タイトル】

「あそんで成長していく」

【説明文】

この写真は私が2月の保育所に実習に行った時に、2歳児25人ぐらいの子ども達と作った雪だるまです。この雪だるまは子ども達が新聞紙をびりびりに破って袋に入れた物で、目や口も子ども達に付けてもらいました。少し目の向きが左右で違うところが気に入っています。

この雪だるまを作るに当たって、私は子ども達に新聞紙を破ることで指先の力が育てばいいな、新聞紙を雪に見立ててイメージが豊かになればいいな、といった願いを込めてこの遊びを提案しました。子どもに直接このように育ってほしいんだよということは言いませんが、「子どもが楽しんで自主的に遊びながら成長していけるか」、「いかに保育者がそのような環境を作れるか」が、保育として大切

なことだと思っています。子どもにとって遊びは心身の発達に欠かせないものであり、食事や睡眠、排泄と同じくらい大切なものだと私は考えます。そこで、「あそんで成長していく」というタイトルを付けました。またこの雪だるまは、子ども達がすごく新聞紙を破る遊びを楽しみながら作ってくれたので、私の考える保育に当てはまるなと思いこの写真にしました。

私は今後、まずは子どもの命を守ることを最優先として、子どもがやってみたい、知りたいと思ったことは挑戦できるような環境を作っていける保育者になりたいです。また、子どもだけで遊ぶのではなく、保育者と一緒に遊ぶことも子どもにとっては大切な経験になると思うので、誰にも負けなくらい子どもと全力で遊ぶ保育者を目指したいと思っています。

発表中、学生たちは自身で画面共有の作業を積極的に行ったり、「拍手」の機能で他学生へ称賛の意を示したりと充実した様子であった。また、発表ごとに山下から賛辞の言葉を送り、より発表しやすい雰囲気づくりを心掛けた。

III-3 ステップ3

発表に対する反応

全員の発表終了後、チャット機能を用いて感想を書き込むように指示をした。学習者からは、以下の感想があげられた。

- 自分には無い発想や忘れていた大切なことを学ぶことができました。
- 自分の考えはもちろん、相手にわかりやすく伝えようとしている話し方でとても参考になりました。
- みんなの保育観を知ることができて良かったです。写真も身近なものが多く、考え方が大事だなと思いました。
- みんなの発表を聞いて、人によって重要視

するところが異なっていて面白かったです。

- 保育学生以外にも伝わりやすい言葉を選んでいる人が多く、参考にしたいと思いました。
- 様々な視点から保育について考えることができました。
- 他の人の発表を通して、自分にはない視点や発想に気づくことができたので、良かったです。
- 発表を聞いて、自分が思いつかなかったことが多くあり、勉強になりました。写真と内容を照らし合わせながら聞くのも楽しかったです。
- みんなの保育観を聞いてとても良かったです。自分にはない保育の考えもあって、とても勉強になりました。
- 20人以上もいるのに、誰一人として全く同じ保育観ではなくて、それぞれとても素敵な保育観だと思いました。様々な視点から保育を知ることが出来て、とても勉強になります。
- みんなとても素晴らしい保育観を持っていると思いました。聞いていて私自身も多くの気づきがありました。
- みんなの発表に対して大きく頷きながら聞いていました。改めて子どもと丁寧に向き合う大切さを学ぶことができました。
- 写真も、言葉もそれぞれ違うけど、全部納得できて、大切だと思いました。聞くことが楽しかったです。
- みんなそれぞれ異なる写真を選んでいましたが、共通して、子どものために何ができるかをすごく考えているなと思いました。
- 保育についてみんなが大切にしていることを知ることができてとても面白かったです。また、同じような保育観でも選んでいる写真が異なり、その人にしかできない保育があるのだと感じました。

- 全員、1つ1つの言葉がとても心に響きました。いろいろな考えがありますが、正解も不正解も無いと思いました。
- 発表を聞いて、自分にはない考えや意見ばかりで私も学ぶことができました。いろいろな視点から考えることが大切だと思いました。
- それぞれの写真を見て自分にはなかった保育観だと思い、子どもたちのためにできることがたくさんあると改めて思いました。
- 全員視点が違って、そこに目を付けたんだと驚くことが多かったです。一人ひとりの保育観を知ることができて、素敵な時間でした。
- みんな、言葉選びが上手で、シンプルでとても分かり易いと感じました。具体的なところに目を向けている人もいれば、大きな枠組みで見ている人もいるところが面白いと感じました。いろんな視点に気づけて良かったです。学ぶことができました。
- 皆それぞれの視点から保育について考えていて、保育の素晴らしさを改めて感じることができました。保育者が子どもに何かをしたいという思いと共に、子どもから学ぶことも大切にしたいと思いました。

チャットでの回答のためひとり一人の文章量は多くないが、感想全体から、同じ保育士を目指す者同士でもそれぞれに見方や表現・理解があることに感心していた様子が見ええた。

IV. 考察

本時の目標について、達成できたのかどうかを授業終了後のチャットの感想から確認していく。本時の授業目標を再掲しておく。

- 1) 自己の職業観を写真で表すことができる。
- 2) 自己の職業観を他職種が理解できるように説明することができる。
- 3) 写真を通して自職についての理解を深めることができる。

「みんなの保育観を知ることができて良かったです」「様々な視点から保育について考えることができました」「みんなの保育観を聞けてとても良かったです」等の感想からは、それぞれの学生が保育観を説明できていたことがうかがえる。また「それぞれの写真を見て自分にはなかった保育観」「同じような保育観でも選んでいる写真が異なり」という感想からは、写真を媒体として他者の保育観への理解を深めていたことが確認できる。よって、本時の授業目標 1)「自己の職業観を写真で表すことができる」については、授業目標の達成を確認できた。

授業目標 2)「自己の職業観を他職種が理解できるように説明することができる」については、「自分の考えはもちろん、相手にわかりやすく伝えようとしている話し方でとても参考になりました。」「保育学生以外にも伝わりやすい言葉を選んでいる人が多く、参考にしたいと思いました。」とあり、他職種を意識した分かりやすい説明ができていたのではないかと考える。よって、目標は達成できたと考える。

「自分には無い発想や忘れていた大切なことを学ぶことができました」「様々な視点から保育について考えることができました」等からは、それぞれが自身の保育観だけではなく、他者の保育観にふれることで、保育に関する視点を広げていることが分かる。さらに、「子どもたちのためにできることがたくさんあると改めて思いました」「改めて子どもと丁寧に向き合う大切さを学ぶことができました」「子どもたちのためにできることがたくさんあると改めて思いました」という感想からは、保育者の役割を再認識し、自職への理解を深めていることがうかがえる。これらのことから、授業目標 3)「写真を通して自職についての理解を深めることができる」は達成できたと考える。

今後の課題

学生たちは、その充実した発表内容や反応（感想）から、本授業に対して高い満足感を示していた。事前課題提示から発表まで、わずか 1 週間

しかなかったが、学生はそれぞれ独自に写真を撮影し、そこに自己の思い描く「保育」を投影して、バラエティに富んだ読み解き（説明）を準備していた。発表終了後のチャットの感想にも、「20 人以上もいるのに、誰一人として全く同じ保育観ではなく」「写真も、言葉もそれぞれ違うけど、全部納得できて、大切だなと思いました」とあるように、写真も読み解きも一つとして同じものはなかった。また、「全員、1 つ 1 つの言葉がとても心に響きました。いろいろな考えがありますが、正解も不正解も無いと思いました」とあり、曖昧性の高い写真だからこそ、多様な読み解きが可能となり、正解・不正解といった枠組みではなく、自由に自己を表現でき、聴く側もそれを受け入れることができたと思われる。これが看図アプローチを活用することの意義であり、さまざまな写真を持ち寄ったことの効果であると考え。

今回は同職種間での発表であり、自職に対する理解を深めることができたが、次回は看護学生との合同授業となるため、他職種での写真持ち寄りによる説明が、学習者にどのような影響を与えるのかを検討していきたい。

謝 辞

本研究にあたり、授業指導案作成にご協力いただきました長崎県央看護学校の先生方には心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

茅野徑子 2020 『『看図アプローチ語りカフェ』による『自分を深く考えよう大作戦』－未来に向かっていく力をつける中学校国語科の卒業制作－』『全国看図アプローチ研究会研究誌』第 3 号 pp.16-29

今福輪太郎 2020 「第 3 章 さまざまな他職種連携教育の実践方法 1 他職種連携教育の原理」駒澤伸泰編著『実践 多職種連携教育』中外医学社 pp.196-199

- 上出香波・林典子 2019 「病棟保育士が考える
チーム医療の一員としての認識について」
『医療と保育』第 17 号 pp.42-51
- 金城やす子・松平千佳 2004 「医療保育士から
みた看護師との連携の現状と課題ー多職種
チームによる効果的な連携を図るために」
『静岡県立大学短期大学部研究紀要』第 18 号
pp.35-44
- 厚生労働省 2019 『令和元年社会福祉施設等
調査の概況』
[https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/
fukushi/19/index.html](https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/fukushi/19/index.html)
(2021 年 5 月 27 日閲覧)
- 大塚敏子・巽あさみ 2018 「“ 気になる子ども ”
をもつ保護者への支援における保健師と保育
士の連携経験と相互役割期待」『日本看護研
究学会誌』第 41 巻 4 号 pp.651-663
- 鹿内信善 2015 『改訂増補 協同学習ツールの
つくり方いかし方 看図アプローチで育てる学
びの力』ナカニシヤ出版
- 高橋佳奈子・土路生明美・鴨下加代 2017 「看
護師と病棟保育士の専門性を活かした連携に
関する文献検討」『看護・保健科学研究誌』
第 17 巻 1 号 pp.150-157
- 山下雅佳実・萩尾耕太郎 2020 「ICT を活用し
た多職種連携教育プログラムの開発と評価ー
保育と看護の協働を目指してー」『保育文化
研究』第 12 号 pp.111-121
- 米岡裕美 2019 「第 1 部 IPE に取り組むため
に 1 知っておくとよいこと」柴崎智美・米
岡裕美・古屋牧子編著『保健・医療・福祉の
ための専門職連携教育プログラムー地域包括
ケアを担うためのヒントー』ミネルヴァ書房

注 本研究を行うにあたり、科学研究費
19K10791 の助成を活用し実施した。

2021 年 6 月 23 日受付

2021 年 6 月 27 日受理